

## R 3 部活動実態調査から見える主な現状と課題について（概要）

### I 部活動の方針について（項目 1～5）

- 1 方針の策定については、ほぼ全ての公立学校が策定している
- 2 方針の公表については、一部の高校で公表していない
- 3 活動計画・実績については、中高ともに、一部の学校で校長が確認していない
- 4 活動計画の公表については、中学で5割弱、高校で2割を超える学校が公表していない

### II 部の設置について（項目 1～13）

- 1 生徒数の減少に伴い部活動数も減少している
- 2 依然として専門的な指導ができる顧問の割合は中高ともに5割弱となっている
- 3 複数顧問配置は中高ともに増えているが、中学校では1人顧問体制の部が 1/4 ある
- 4 部活動数については、特に中学校で学校規模に対して多いと感じる教員が多い
- 5 部活動への入部の在り方は中高ともに6割以上が「全員加入制」である
- 6 校外活動を優先している生徒は中学校 2,374 人、高校 221 人

### III 活動状況について（項目 1～25）

- 1 休養日の設定については、中高ともに公立の全校で遵守・ほぼ遵守している
- 2 活動時間については、中高ともに公立の全校で遵守・ほぼ遵守している
- 3 今年度参加する大会数の平均は中学が 5.22 回、公立高が 6.92 回、私立高が 9.04 回
- 4 顧問の 1 週間の部活動指導時間平均は中学 271 分、高校 356 分
- 5 顧問の 1 週間の時間外勤務における部活動業務割合は中学 38%、高校 50%
- 6 H30 に比べ部活動時間は縮減されたが、その他の業務が増えたと感じる教員が多い
- 7 時間外勤務の一番の要因とされる業務は部活動であるという教員が多い
- 8 中高ともに、部活動が学校教育に必要だと思ふ教員が多い
- 9 休日の部活動を地域に移行する取組みに賛成する教員が多い
- 10 部活動改革を何かしらの形で進めるべきと考える教員が多い

#### IV 部活動運営について（項目 1～19）

- 1 外部指導者を活用していない学校は非常に少ない
- 2 外部指導者の活用は、休日が多い
- 3 地域のスポーツ団体との連携は、中学で5割以上が連携しているのに対し、高校は9割以上が連携していない
- 4 中高ともに、連携していない学校の9割以上が今後の連携を考えていない
- 5 休日の部活動の地域移行について、公立高校の6割以上が見当もつかないと回答
- 6 部活動指導員には、中高ともに専門的な指導ができない顧問の代わりに指導を期待している学校が多い

#### V 専門的な指導ができる先生への質問まとめ（項目 1～4）

- 1 専門的な指導ができる教員で部活動に「やりがい」を感じているのは、中学で7割弱、高校で8割弱いる
- 2 専門的な指導ができる教員の部活動指導目標は、「生徒の人間性の向上」と「競技力向上」と回答する教員が多い
- 3 専門的な指導ができる教員が部活動で感じている主な課題は、「校務多忙で部活動指導ができないこと」「部員数が少ないこと」「部活動指導が多忙で他の校務ができない」等

#### VI 専門的な指導ができない先生への質問まとめ（項目 1～4）

- 1 専門的な指導ができない教員で部活動に「やりがい」を感じているのは、中高ともに3割弱である
- 2 専門的な指導ができない教員の部活動指導目標は、「生徒の人間性の向上」と「競技そのものを仲間と楽しむ」と回答する教員が多い
- 3 専門的な指導ができない教員が部活動で感じている主な課題は、「専門的な指導ができないこと」「部活動指導が多忙で他の校務ができない」「校務多忙で部活動指導ができないこと」等